



働く女性の現状として、特に沖縄では、高い非正規雇用率や転職率、短い就業継続年数、低い平均所得、共稼ぎ世帯の多さなどが特徴として挙げられます。仕事をしている女性、仕事をしたい女性を応援し、女性が直面するさまざまな問題を改善、解決し、働き続けられる職場づくりを支援している団体があります。沖縄県女性就業・労働相談センターは「女性が働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場である」という趣旨のもと「女性が働き続けられる職場づくり支援プログラム」などを推進しています。今回の「沖縄を語る!」は、同センターの地下千秋氏(総合コーディネーター・産業カウンセラー・ジョブコーチ)に「働く女性応援事業」についてうかがいました。(敬称略)

まず、沖縄県女性就業・労働相談センターのプロフィールを。

地下 前身は、沖縄県の「労政・女性就業センター」です。2015(平成27)年度から、名称が「沖縄県女性就業・労働相談センター」(略称OWLCC)に変わりました。管理運営、事業実施は、公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会が受託しています。所在地は、那覇市泉崎にあるカフーナ旭橋「グッジョブセンターおきなわ」内です。

OWLCCでは「働く女性応援事業」と「労働相談事業」の2つの事業を主に行っています。

2015年といえますと、女性活躍

OWLCCが取り組んでいるという「働く女性応援事業」と「労働相談事業」について。

地下 「働く女性応援事業」は、主に4つの取り組みをしています。仕事をしている女性、仕事をしたい女性を対象にした「個別相談」、実践に役立つ「女性のキャリアアップセミナー」(県内各地で開催)、HPで「内職の情報」を提供している、そして「女性が働き続けられる職場づくり支援プログラム」の周知および企業支援です。

一方、「労働相談事業」は、男女を問わず、労働者、雇用主などの働くうえでの悩みや労働問題について、常駐している社会保険労務士が双方の立場で解決に向けてアドバイスを行っています。また、労働関係法令に関するセミナーなども県内各地で開催しています。

コロナ禍で相談件数増加

女性を対象にした「個別相談」は、月々、どのくらいの件数ですか。その内容は?

地下 今年度の「個別相談」の件数は、月50〜60件のペースです。コロナ禍で厳しい時期は、離職や転職を余儀なくされた女性からの相談が増えました。現在(10月半ば)は落ち着いてきています。

相談内容については、適職、つまり、「いままで事務職を続けてきたけ

推進法が国会で成立した年ですね。OWLCCと同法は関わりがありますか?

地下 女性活躍推進法は2015年に成立後、翌年に施行し、その3年後に改正しました。OWLCCの活動は、働く女性の活躍を後押しする同法と深く関わりがあります。

同法が成立した当時、その背景として「現在および将来の人手不足、労働力不足を解消するため」「就業を希望しているものの、育児や介護を理由に働いていない女性が約300万人(当時)にも上るため」「出産・育児による離職を経て再就職する際に非正規雇用者となる場合が多く、能力の発揮を

れど、自分が望む仕事で再就職できる機会がない」という悩みなど、さまざまです。最近、増加傾向にあると感じているのは、更年期障害の悩みです。「職場で打ち明けにくい」「休みづらい」「つらい」「辞めたほうがよいのかな」というものです。

コロナ禍でひどかった時期には、「子どもを預けたいが、保育園が急に休園になってしまったり、会社にもすぐく気がつかなくなってしまったり。仕事を続けたいけれど、迷惑を掛けてしまうので辞めたい」といけないういかな、家計も厳しいのにどうしよう」という相談もありました。

働く女性の現状として、出産・育児・介護による離職のほかに、特に沖縄は、高い非正規雇用率や転職率、短い就業継続年数、低い平均所得、共稼ぎ世帯の多さなどが特徴として挙げられます。沖縄で仕事をする女性には、残念ながら、ライフステージに合わせてキャリアを積み上げていくような環境にまだまだありません。

先日、那覇法人会会員企業の管理職の方から「女性社員の健康管理実践講座」(9〜10月に掛けて3回実施の連続講座)を受講して「とても有益だった」という率直な感想を聞きました。同講座は、「働く女性応援事業」の一環ですか?

地下 おっしゃる通り、その「女性社員の健康管理実践講座」は「働く女性応援事業」の一環で、「女性が働き続けられる職場づくり支援プログラム」

阻む一因となっているため」などが挙げられました。政府は、女性が十分に活躍できていない現状を鑑みて同法を成立させ、女性が働きやすく、かつ長期的にキャリアを形成していくけるように、国、県、事業主などに対して改革を求めたのです。OWLCCもその役割を担っています。

労働力人口は、2012年の労働力調査によりみると、前年と比べて8万人減少しています。男女別で見ますと、男性が20万人も減少しているのに対し、女性は13万人増加しています。人材確保が深刻な課題となっているだけに、女性が活躍できる職場環境を整えることが求められています。

OWLCCの女性応援活動を知っていた例のひとつとして紹介いたしますと、「女性が働きやすい職場は男性にとっても働きやすい職場である」という趣旨のもとで、今後とも企業の大切な「人財」である女性が安心して働き続けることができる職場づくりの大切なポイントを学んでいたたく企画でした。特に、各世代の女性特有の体調の変化(妊娠・出産・更年期)に応じた働き方、介護などライフイベントに応じた働き方を企業が支援することで、仕事の効率や生産性をあげるヒントをつかんでいただきたいという狙いがありました。

この体験講座は毎年、テーマを変えて開催しています。

オーダーメイド型支援とは

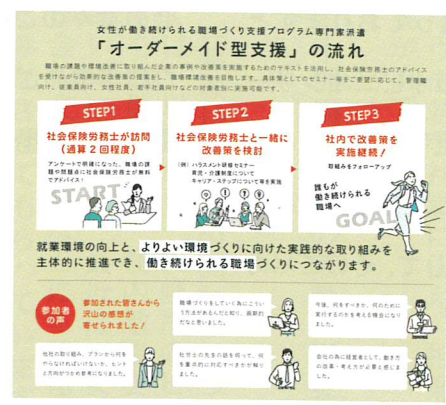
女性社員の職場環境、働き方などについて、那覇法人会の会員企業、県内の中小企業の経営者や管理職の皆さんへアドバイスを。

地下 先述の「女性社員の健康管理実践講座」も「女性が働き続けられる職場づくり支援プログラム」の体験講座でしたが、同プログラムは「オーダーメイド型支援(無料)」として企業向けに実施しています。

OWLCCが、専門家である社会保険労務士を企業に派遣し、3段階

女性が働きやすい職場は 男性にとっても働きやすい職場

～沖縄県女性就業・労働相談センター 地下千秋氏に聞く(総合コーディネーター・産業カウンセラー)～



オーダーメイド型支援の流れ

この「オーダーメイド型支援」は2017年度からスタートし、現在61社が利用しています。ぜひ、ご活用ください。

(聞き手・鈴木孝史 (有)編集室 タッカーハウス代表)

問い合わせ先 沖縄県女性就業・労働相談センター 098-863-1788